

## ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

(144)

### 長八小学校校区の遺跡3

〈国史跡・恵解山古墳の調査〉

恵解山古墳(古墳時代中期)は乙訓最大規模の前方後円墳です。昭和55(1980)年に前方部中央から、鉄製武器類を大量に納めた施設が見つかり、翌年、国の史跡として指定を受けました。

その後、用地の公有化が継続して進められ、公有化が完了した2年前からは、古墳の保存・整備に向けての調査が開始されました。

2年前の調査で、古墳の全長は、現状とほぼ同じ約120メートルであることが確認されました。同時に、前方部の幅は、現状よりかなり広がったこともわかりました。昨年の調査では、前方部の幅を古墳の西側で追求し、南西角の曲がりを見ました(写真上)。また、前方部の西端は、現状の盛り上がった部分より約6メートル外側にあることも確認されました。

これらの調査で、前方部の長さは変わらないものの、幅は現状の55メートルよりも大きい70メートルを超える規模であったと推測されます。

他にも新たな発見がありました。前方部の北西には「造り出し」と呼ばれる舞台のようなものが付属していることがわかりました(写真下)。また、墳丘斜面の上には、古墳の周囲を巡っている埴輪列が残っていることもわかりました。

古墳の規模や構造は、調査後2年を経てようやく見えてきました。その一方で、古墳をどのような形で保存・活用するか、市民の皆さんと一緒に検討する取り組みも始まっています。

長岡京市唯一の国史跡をどう生かし、後世にどう伝えるのが、今、問われているのです。

(財長岡京市埋蔵文化財センター)



▲前方部南西コーナー



▲前方部西側の埴輪列と造り出し